

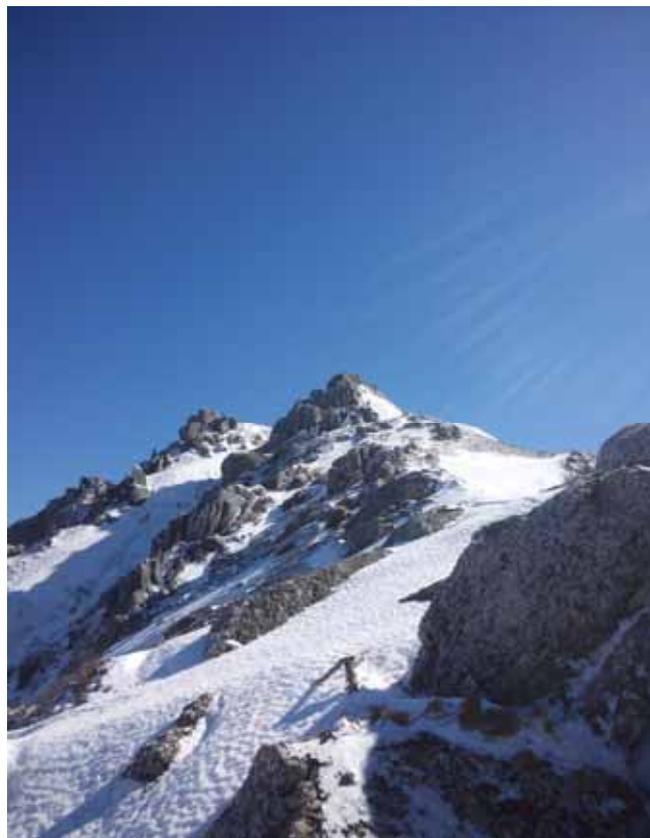
# デンソー山岳部 Bパーティ 2013年度春山合宿 報告書

- 山城 中央アルプス  
越百山～仙涯嶺
- 日程 平成25年4月27日(土)  
～4月29日(月)

## ➤ B隊メンバー

森朋哉 (CL)  
方田智貴 (SL、記録)  
町田修 (監督)  
春口昂輝 (装備)  
吉村絢 (食料)  
安藤愛 (食料、記録)  
松浦英樹 (地形)  
田口靖児 (会計)  
津田廣一 (気象)  
山本浩樹 (記録)  
竹内幹雄

計 11 名



仙涯嶺を望む



今回のルート(赤字)

## ◇行動記録 第1日◆ 4/27(土) 曇りのち晴れ 【山本 記】

5:00	起床	6:00	道の駅『大桑』を出発
7:05	登山口出発	8:00	一本
9:05	4合目にて一本	10:20	一本
11:35	一本	12:30	一本
13:25	一本	13:50	テン場着
20:00	就寝		

(※4/26前夜 本社N1駐車場集合(19:30)→道の駅『大桑』(22:20))

～\*

最終日の業務終了後、N1駐車場に集合。竹内号・吉村号・山本号の3台に分乗しA隊と共に道の駅『大桑』を目指す。小雨が降る中、第2Pにテントを張り、AM0時まで前夜祭。翌朝には雨はあがっており、狭い林道を3台で移動、登山口駐車場へ。松浦さんの地形予測では、一部急登があるものの、おおよそ緩やかな登り?と予想されたが・・・

樹林帯は軽快に進んでいたが、雪道にさしかかると同時に滑りやすいだけでなく、ひたすら続く急登にB隊のメンバーは苦痛の表情を浮かべる。時間的には余裕あるものの、かなりの疲労感を漂わせていた。

まだかまだかと思いながら、ようやくテン場に到着。松浦・山本・春口の3名で女性専用トイレを製作。今回は雪をブロック状に切り出し、風除け(目隠し)も設置。なかなか快適なトイレが完成した。

夕食は吉村さんの自信作『油麩丼』、味も抜群で疲れた体へしっかり栄養補給できた。

町田部長指導のもと、山の歌を練習し床についた。



簡易トイレ

## ◇行動記録 第2日◆ 4/28(日) 晴れ 【安藤 記】

4:20	起床	6:20	出発	7:20	越百山登頂
7:35	越百山出発	8:29	一本	(9:20	ザイルを使用)
9:29	仙涯嶺登頂	9:47	仙涯嶺出発	(9:53	ザイルを使用)
11:00	越百山	11:20	出発	11:35	南越百山登頂
11:42	南越百山出発	12:00	越百山	12:10	下山開始
(12:20	ザイル使用)	13:00	小屋到着	14:15	小屋出発
15:08	一本	16:00	一本	17:10	全員無事下山

～\*

当日の朝4時起床予定でしたがみんな20分寝坊した。前夜に食中りになった山本さんがほとんど眠れなかったと言っていたので心配だ。朝食の準備にとりかかるが、安藤が山本さんのマットの上に前夜作った水をぶちまけた。(山本さんごめんなさい)朝食の肉入りうどんもとても美味しく、元気がでた。

5:45分頃A隊吉田さんが様子を見に来た。6時出発に向けて慌ただしく準備をする。

がしかし、20分の寝坊を巻き返せず、6:00、A隊出発を見送った。



越百山に挑むA隊（奥）、B隊（手前）

6:20、朝礼を行い、いよいよ出発だ—————！！！！！！！！

山頂まで結構険しい道があるく、途中山本さんが「そこ危ない」と教えてくれる。確かにとても危なかった。後ろから町田さんがアイゼンの使い方、について丁寧に指導していただく。実践しながらの先輩方の指示はとても勉強になる。

景色は最高に恵まれ御岳がずっときれいにみえていた。富士山や、北アルプス、南アルプスも鮮明に見え、雲ひとつない天候に恵まれた。風も吹いたり止んだりで、そこまでの強風ではな

かった。風がないと汗をかくぐらいの気温だった。

仙涯嶺登頂の少し手前でザイルを使った。町田さんが巧みにいろんな技を繰り出し、言葉もよくわからない言葉を使い、とてもかっこよかった。以前から思っていたが登山用語はいちいちかっこよくなっている。きっと男のロマンなんだろうと思った。

ザイルがあるかないかでは気持ち的な緊張感が全然ちがう。準備に時間はかかるが命には代えられないと思う。

仙涯嶺に着くと前に行くA隊の姿を絶好の位置でとらえることができ、離れた場所からお互い写真を取りあった。みんなでA隊にエールを送った。

B隊は休憩中いつもにぎやかだった。ムードメーカーの方がたくさんいたからだ。登る時は真剣で楽しいときはみんなで笑いあい、とてもいいムードだった。

帰りはトップを方田さんから山本さんへチェンジした。二人ともとても頼もしく後ろ姿に安心してついていった。下山するときこんなに険しい道を登ってきたのかといつも思う。傾斜が厳しい急斜面をみて驚いた。帰りもザイルを使用した。



越百山山頂にて



仙涯嶺から南駒ヶ岳（中央下にA隊）

越百山に戻ってくると気温は2度くらいだった。相変わらず雲ひとつない天気がつづいていた。そこから南越百山を目指すことにするが、足が痺れていた吉村さんはお留守番することになった。みんなのザックに囲まれてシュラフカバーで暖をとる姿は『山の神』だった。そんな吉村さんにダウンを貸したり、声をかけるメンバーをみてほかほかする気持ちだった。メンバーの助けあう温かい一面を垣間見た

南越百山までは15分で到着した。途中滑落停止訓練を実施した。町田さんの滑落停止の早さはさすがだった。南越百山からはっきりと見えた北

アルプスは本当に美しかった。こんなにもきれいな景色があるんだなと感動した。越百山までの戻りは登りとなり、結構辛かった。みんなだまされたーと言いながら一生懸命登っていた。

みんな達成感と今晚の晩餐会に向けて気持ちも高まる中、下山を開始した。下山時も練習を兼ねて危ない箇所はザイルを使用した。途中で松浦さんがサングラスを直そうとして間違えてピッケルをもったままおこなった為、ピッケルで鼻をすりむいた。大げがにならなくてすんでよかった。

テントまで残り10分ぐらいのところで登ってくる登山者に遭遇した。その人曰く「小屋の主が来ていてテントを張ってはいけないと怒っている」とのことだった。少しいやな予感がしたがとりあえずテントにむけて下山した。

テントに着くとそこには絵にかけそうなおやじがまっていた。ここでテントをはれないから撤収するようにいわれた。町田さんが交渉にあたるが無理だった。やまのおやじは頑固であった。みんなへろへろだったし、お酒を楽しみにしていたのでとても悔しそうだったが仕方なく撤収の準備を開始した。ここでもお水をもっていない人(夜沸かそうと思っていたのでなかった)へ余っている人がわけていた。そういう助けあう姿はいちいち素敵だと思った。

泣く泣く下山を開始した。最初は登りが続いた為、本当に大変だった。荷物の重さで足がふらつき大丈夫かと心配になった。それでもみんな一生懸命登っていた。前に行く山本さんが登りはもうおわりだと教えてくれてほっとした。そこから。。とても楽しい下山が始まった。何が楽しいかってとにかく滑る！滑る！滑る！降りたのか滑ったのかわからないくらい滑る。吉村さん田口さんは相当滑ったらしく、木にしがみついたといていた。それでも楽しくすべれた(?)のでみんなに笑顔に戻った。下山時に前に行く山本さんが滑る箇所を教えてくれると私はことごとくそこにはまって滑った。体中にたくさんのアザ、服にはたくさんの土、手には毛虫、そんな状態で一生懸命下った。途中で町田さんの後ろにつき、町田さんが歩いたところに足を置くことにした。町田さんはと全く転ばなかった。滑りかけてもそれをうまくいなしていた。そんなステップに感動して、町田さんにこれからもついていこうと決めた。

下山時に早い人、ゆっくりな人で差が出てしまうので早い人が後ろについていき、ゆっくりな人を前にした。ゆっくりチームではチーム40代、松浦さん、田口さん、吉村さん(実年齢は30代ですが・・・)が結成された。チーム40代はコントチームで、滑るよといわれても全員回避できず、全員滑る、転ぶを繰り返す体を張ったチームだ。休憩時にみんな笑顔で自分の転倒体験を話してくれた。その話を聞いて空気も和みみんな笑っていた。辛い時こそ、みんな笑顔！

ながいながい約11時間の行動を終え、17:10分無事全員で下山した。全員で無事に下山できたこと、本当に素晴らしく思った。予定変更になりながらも、へとへとになってみんなとても頑張ったと思った。私自身もなんだかとてもパワーアップした気がした。

そこから津田さんオススメの温泉に向かう、がしかし、50キロ制限のところを、けっこう飛ばしていた為、入口を通り越してしまったので少しはなれた神坂峠付近の温泉へ変更した。そこで夕食もとった。温泉で座ると地に根が生えたように動かたくなかった。

21時頃温泉を出発しN1駐車場にむかった。22:30すぎにN1に到着しそこで帰宅する人、片付けできる人にわかれた。私は電車の関係で先に失礼させていただいた。23:10分頃吉村さんから片付け完了の連絡をいただいた。

途中予定外のことがあったものの、無事B隊の春山合宿が終わった。初めて参加した合宿がメンバーと天候に恵まれて最高に素敵な合宿となったので良かった。いろんなことをメンバーの人から学ばせてもらいとても勉強になった。これからももっとたくさんの山にチャレンジできるように日ごろから体力UPに努めたいと思う。



チーム40代結成の急斜面

## ◇気象状況◆ : 津田

前日(金曜日)の夜から、朝にかけて雨が降ったが、山中の2日間とも降られる事なく、予想通りの絶好の天気となった。移動性高気圧の圏内にすっぽりと入り、本当に恵まれた山行であった。



## 前日(4/26)

刈谷を夜に出発、道の駅に到着頃から、小雨。夜の間は降っていたと思われる。日本海の低気圧の影響が残ったものと思う。



## 第1日(4/27)

朝方は曇り空だったが、徐々に回復し、テン場到着頃には、晴れへ。西からの高気圧の圏内へ入ってきた。冬型の為、風は強い。



## 第2日(4/28)

目覚めると満点の星空。冬型気圧配置で風は、やや強く、オーバーヤッケを着て、丁度いいぐらいであり、頂上アタックには最適。テント撤収後の下山時は暑かった。

## ◇装備◆ : 春口

自身初の合宿参加であったが、森CLのサポートの下、必要な共同装備を適切な個数で準備することが出来た。また、共同装備の担当者を事前に把握していた為、装備の出し入れや個数確認等を素早く行うことが出来た。今回B隊は11名とあって、一人一人の共同装備が少なく、非常に助かった。次回も合宿参加者が多いことを祈ります。

※共同装備の個数確認は、下山後駐車場でいった方が、部室で行うよりわかりやすく、効率が良いと思いました。

## ◇食料◆ : 吉村、安藤

1日目 夕食: 油麩丼(米6.5合)、味噌汁、海藻サラダ(乾燥50g)

2日目 朝食: 肉入りうどん(生麺10玉)

嗜好品: 緑茶、コーヒー、ココア、フルーツティー、お汁粉、生姜湯、ゆず茶、おつまみ

- ・ 最近、東北復興支援活動参加等により東北と縁が深いデンソー山岳部。今回の合宿は東北グルメ(1日目:宮城の油麩丼、2日目:岩手のせんべい汁)にした(早めの下山により、せんべい汁はキャンセル)。
- ・ 仙台麩(揚げた麩)と南部せんべいは、軽いが食べごたえがあるためオススメ。ただし、かさばるため注意。具には、軽い乾燥シイタケや春雨等を使用した。
- ・ V6、V8両方のテントを温める目的で、V6で炊飯、V8でおかずを調理した。その後、V6から炊きあがったご飯を持ってきてもらい、V8で全員で食事を取った。
- ・ 2日目の朝の肉入りうどんは、うどんを茹でている間にレトルトの牛丼の具を鍋蓋上で温めて調理。
- ・ 今回、野菜をスライサーで細くしていくことで、短い時間で火が通るように工夫していった。しかし、2日目の夜、3日目の朝に使用予定だったため、どのくらいで調理できるかは結局不明のまま・

## 【反省点】

燃料の使い過ぎ。1日目、溶かした水が真っ黒、鍋の転倒による水の作り直し、長めの調理時間、多くの人による翌日の飲料水作りのため使用燃料量が多かった。下山が早まらなければ燃料が不足していたかもしれない。冬季の燃料の使い方をもっと工夫しなければいけないと思った。

## 【お礼】

金子さんと江頭さんからいただいたカンパ金で、宮城の南三陸町から復興酒と燻製牡蠣を取り寄せました。A隊、B隊全員でとても美味しくいただきました。ありがとうございました!

## ◇会計報告◆ : 田口

収入

会費	3,500×11名	38,500
A隊往路交通費	900×4名	3,600
	合計	42,100

支出

交通費	25,330
食費	9,870
温泉	6,900
合計	42,100

## ◇感想◆

## ➤ リーダー所見 【森】

今回はA・B2隊編成で総勢15名、特にBパーティは11名と例のない規模で、また新人・雪山初心者が大勢参加してくれました。天候と何よりメンバーに恵まれて、短いながらも非常に充実した山行となりました。皆さんありがとうございました。

メンバーはまさに老若男女入り混じっての編成、特に2日目は当初行動予定を完遂後にまさかの下山となり丸々2日分の行動でしたが、大きく足並みが乱れることもなく最後まで歩き通せたのは立派だったと思います。(帰路も含むと個々の負担も大きく今思えば結構無理のある行動で反省。)また町田さん指導の下、少し難しい雪面で積極的にザイルを出したのも、春合宿ならではの良い経験ができたと思います。

殆どトップを歩いた方田さん、業務都合で急遽A→Bに変更の山本さん、炊事を積極的に仕切ってくれた吉村さん、みんなを引っ張ってくれてありがとうございました。メンバーの皆さんも個性派ぞろいで大いに盛り上がりましたし、テントでもう1泊できなかったのが残念です。

とにかく大人数で快晴の雪の稜線を歩くのはすごく気持ち良かったです。また行きましょう!

留守部員の皆様、差し入れをいただいた金子さん、江頭さん、この場を借りて御礼申し上げます。

**【今回のCL反省点&今後への申し送り事項】**

- ・越百小屋までは急登の連続。新雪ラッセルでは非常に苦しめられそう。
- ・越百小屋付近に幕営したがGWより小屋営業とのことで撤収を求められた。→幕営地の再検討要。
- ・テント移設（登り返す）か下山かで下山を選択@14時。→下山はできても帰路まで安全といえたか？
- ・持参したガスの量が少なく燃料切れの危機に。→人数も加味して計算すること。

**➤ メンバー感想****【吉村】**

通常、長期休暇は海外に行くため、入部6年目にして初めての合宿参加だった。天気、メンバー共に最高で、とても楽しい春合宿となった。しかし、足の指の痺れが酷く、他のメンバーに迷惑をかけっぱなしで非常に申し訳ないのと、悔しい思いをした。山行数日前から痛み止めを飲んでおくと良いことを知ったので、今回はこの方法を試してみたい。山行に参加するメンバーは、事前に簡易ハーネスとプルージック結びができるよう復習しておくとう良いと思った。最後になったが、疲れている中、女性陣のために雪の囲い付きの素敵なお手洗いを作ってくださった山本さん、松浦さん、春口君に感謝です。快適でした！

**【安藤】**

初めて合宿に参加し、天候とメンバーに恵まれたおかげでほんとーに楽しい合宿となりました。食事係補助としては吉村さんまかせだったのですが、食糧の軽いものを選ぶとことか勉強になった。今回の山行で初めてセカンドを歩いてみて、先頭にたって歩いてくれている方々が道を選ぶ姿をみて、すごいなーっと思いました。まだまだお酒をもって登る余裕はないですがそれぐらい体力にも心にも余裕がでるようになればいいなっと思いました。

**【松浦】**

今回、初めて合宿に参加し、地形担当を任命された。はじめは何をすればいいか分からず戸惑ったが、インターネットや地形図を見ながら自分なりに登山ルート、高低差、歩行距離、ビューポイントなどを推測。資料作成しメンバーへ展開した。

これを元に実際に登山して見て。自分で調査・推測したルート、歩行距離はほぼ一致していたが、7合目付近から越百小屋までの急登は予想をはるかに超えており、苦戦した。今回、地形図と実際のルートとの違いが分かり、勉強になった。

2日目はB隊は軽装でもあり、稜線に出たからは天候にも恵まれ、360度パノラマに包まれながらの稜線歩きとなり、気持ちよく歩くことが出来た。稜線は地形図ではほぼ急登は無いと読んでいたが地形図では読めない急登が各所にあり、実際に現地に来なければ分からないことが多いと思った。合宿に参加し、いろいろ勉強になったし何より楽しかった。実りある合宿となった。

**【田口】**

1日目の越百小屋に行くときの急登はかなり急な斜面を直登で距離も長く、また、荷物も重かったので大変疲れました。

2日目の稜線および越百山頂からの景色は天候もよく、富士山もしっかり見えて最高の景色でした。

登山靴が足にあわず痛みを我慢しながらの山行になりました。今回の山行で装備や荷物の重量、登山靴の見直しが必要であることを学んだので今後の山行に活かしていきたいと思います。

**【津田】**

小屋の周辺、テント禁止という事で3日の工程を2日にするという思いがけない山行となったが、予定通りに越百山・仙漕嶺・南越百山の工程をこなす事が出来た。2日目のテント撤収後の下山は、体力的にきつく感じたが、何とか若手についていく事が出来た。天候に恵まれて、御嶽・乗鞍・彼方に白山、北アルプス・八ヶ岳・南アルプスの向こうに富士山までも、1日を通して見る事も出来、又、テントの中では、1日だけとなったが宴会と山の歌も楽しんだ。

幸運とメンバーに感謝。素晴らしい山行、ありがとう！

**【竹内】**

久々の春合宿に参加しましたが、一日目に越百小屋手前にある最後の急登を登り切った時にはホットした気持ちになりました。

二日目は天候も良く、越百山山頂では雲ひとつ無い青空の下で大展望を楽しむことが出来ました。そして無事下山。

メンバーの皆さんに感謝します。楽しい山行ができ本当に有難うございました。

**【山本】**

今回はB隊として参加させていただき、11名という大所帯での行動で、終止賑やかな合宿だった。雪も深く、長い急登では自然に隊列も長くなり、B隊は皆苦痛の表情を浮かべていたが、A隊のメンバーは余裕の表情で登っていた事に驚いた。今回の合宿には女性も2名参加していた為、雪上訓練に続き、松浦、春口、山本の3名で女性用のトイレを製作した。ブロック状に積んだ雪を壁にし、我ながらなかなか快適なトイレができたと思う。ロープワークの練習ではビレイについても指導していただいた。安全登山を続ける為にも、このスキルは今後も習得していきたい。

今回の山行は、急遽日程が短縮となってしまったが、充実した山行となった。個人的にはスタミナ不足を痛感した為、A隊についていける様、スキルと体力をつけて、今後の山行に臨みたい

**【方田】**

越百山からの下山時、ただの斜面にて、立ちコケし、メンバーにぶつかり止まった為か、急斜面箇所、腰が引け、アイゼンの爪が効きにくくなった。しかし、要所では、ザイルのおかげで無事下山。ザイルがこんなに安心できるものかと痛感した。初の春合宿（テント泊）、初アイゼン&ピッケルで臨んだ初尽くしの山行でしたが、自身の全般的な経験と技術向上が強く必要とを感じるものとなりました。

ただ、充実した山行ができたと思えるのは、素晴らしい天候と最高なメンバーのおかげだと思います。天気に感謝、メンバーに感謝、山に感謝！

**➤ 総括 【町田】**

私はクラブのメンバー特に新人には雪山登山を経験させてあげたい、積雪期の山の素晴らしさを味わって欲しい、その思いが常に底辺にあります。そして、その入門編として春山が最も適しています。今回、私のその思いを彷彿とさせるメンバーと山と気象の条件が全て揃いました。確かに一日目はザックも重く樹林帯の長い尾根の登りはきつい。しかし、ベースの越百小屋が見え、雪稜の奥に目指す山頂を確認できたとき、安堵感と明日への少しの不安と新しいチャレンジ意欲が湧いてきたはずです。テント場に着けば硬い雪をスコップで削りv8の床を整え、快適なトイレを作るのもみんなで行います。仲間のためです。

上部に向かえば急峻な雪面でも春山はアイゼンの爪を利かせて快適に歩けます。歩きのテクニックがあれば、前者のルートを少し外そうが自分の好きな所も歩けるのです。春山の楽しみです。スキルが足りなかったり難所が出てくれば積極的にザイルを使い安全を確保します。個人の基本的ザイルワークの必要性を実感できたと思います。軽い斜面で滑落停止の練習もやりました。天気の良い春山だからできたのです。

稜線からの眺望は素晴らしかったですね。予測通り南アルプス塩見岳の南側に富士山が現れました。私の知っている360度の山々を大方教えることができました。さて、次はどここの山を目指しますか？！

いろいろハプニングもありましたが、吉田・森CLのリーダーシップと頑張ったみなさんのメンバーシップで素晴らしい春山を堪能できました。ありがとうございました。